

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：13401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02781

研究課題名(和文) 深まりのある学習場面を生み出す「見取り」と「介入」に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical research on "views" and "interventions" that create deep learning scenes.

研究代表者

松友 一雄 (Matsutomo, Kazuo)

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・教授

研究者番号：90324136

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：深まりのある学習場面を生み出す「見取り」と「インターベンション」に関しては、学習深化する具体的な学習場面を四点指摘し、かつ教師のどのような介入が必要となるか指摘した。また、こうした学習活動を生み出すために教師は学習者の認識や思考の表出、学習者相互の交流の活性化などを目的とした「見取り」と「介入」を行う必要があることを指摘した。

また、教員研修プログラムの開発においては、「見取り」の質的向上を促すための教員研修として、授業計画段階及び授業実施段階における学習者の言語活動の質を見とる観点を理解し、具体的な学習状況のどの部分に目を向けるかという点に関する研修の開発が重要であることを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、現在授業に求められている「深まりのある学習」を生み出すための教師の「見取り」と介入について具体的な学習場面レベルで明らかにしている。この点を明らかにすることで、学校レベルで行われている授業研究会や研修などで参加する教師の授業を見る観点が明らかになり、深まりのある学習を目指した学校レベルでの教員研修を実施する際に役立つ知見を提供している。

また、効果的な「見取り」と「介入」を行うための教員研修に着手し、特に授業計画段階及び実践段階に関する研修を開発した。これによって、授業において効果的な学習場面を生み出すことができない教員の実践的力量の向上に資することが可能となった。

研究成果の概要(英文)：Regarding "viewing" and "intervention" that create deep learning scenes, he pointed out four specific learning scenes that deepen learning and pointed out what kind of intervention the teacher would need. He also pointed out that in order to create such learning activities, teachers need to perform "viewing" and "intervention" for the purpose of learning learners' recognition, expression of thoughts, and activation of mutual interaction between learners.

In addition, in the development of the teacher training program, as a teacher training to promote the quality improvement of "view", understand the viewpoint of seeing the quality of the learner's language activity at the lesson planning stage and the lesson implementation stage, and concretely. He pointed out that it is important to develop training on which part of the learning situation to look at.

研究分野：教育学

キーワード：教師の見取り 教師の介入 深まりのある学習

## 1. 研究開始当初の背景

小中学校の国語科の授業では、主体的・対話的で深い学びが追求されている。授業の計画性はいうまでもなく、授業中での教師の即時的な「見取り」とコミュニケーションの力量が求められている。こうした状況に対応する形で、授業における教師のコミュニケーションに関する研究が進められている。学習者の発話に対する教師の「リヴォイシング」(O'Connor&Michaels,1993一柳 2009)や、発話を精緻化する「リフレクティブ・トス」(Van Zee,E.,& Minstrell,J.1997)が、学習者をより深い思考に導き、参加を促進することが実証されている。この他、学び合う授業や議論の活性化に必要な教師の談話方略(高垣ら 2006・2014、尾之上ら 2011)教師の非言語行動の学習者の意欲換気の実証(古城 1982、蘭・内田 2005)など、知見は豊富である。

研究代表者は、上述した「リヴォイシング」などをあくまでも教師の介入技術の1つと捉え、教師の教育観や教科の学力に関する知識を背景とした「見取り」を起点にし、ゴールを意識した教師の介入(インターベンション)を長期的・計画的な教授行為として位置づけた研究を展開している。例えば、学習活動の中で教師が長期的な見通しをもって、学習者や学習集団の学習状況を「見取り」し、即時的にコミュニケーションする技術として言語・非言語的介入(インターベンション)の効果を明らかにし、その類型化を行った。(松友・大和 2012、2013)。その結果、「学習者を学習に誘う」や「学習者相互をつなぐ」等といった主体的で協働的な学習場面を生み出すための介入と「学習者の発話を整える」や「優れた学習者の方法知を取り出して共有する」といった学習者の学力を育成するための介入の効果を明らかにしている。

さらに、その起点となる「見取り」の質が、その後の介入に深く関係しており(大和・松友 2016)、「見取り」の質を向上させるための各教科の教育内容や学力に関する理解を深めるための教員研修に加えて、実際の自己の授業における「インターベンション」をカンファレンスによって対象化していく研修など、長期的かつ体系的な研修プログラムの開発を進めてきた。(大和・松友 2014、松友 2015)

## 2. 研究の目的

本研究では、これまでの研究成果を基盤としながら、国語科授業において深まりのある学習場面を生み出すためには教師のどのような「見取り」と「インターベンション」が効果的であるか、という点を実証的であることを目的としている。また併せてこれら授業実践力を教員個々人のコミュニケーションの特性に合わせて向上させていくために、日々の授業を対象とした授業カンファレンス研修の開発を進める。

## 3. 研究の方法

本研究では具体的な研究の内容として以下の点を進めていくこととする。

A 深まりのある学習場面を生み出す「見取り」と「インターベンション」に関する研究

国語科授業固有の学習の深化を類型化し、具体的な学習場面の事例収集を行う。

教師の意図性や計画性、背景となる知識などをインタビューによって収集し、質の高い効果的な「見取り」の基盤となる要素を明らかにする。

学習の深化を捉えることのできる学習のエビデンスを収集し、教師との関わりの中で学習が深化するメカニズムを明らかにする。

B 教師の「見取り」と「インターベンション」の質的向上を目指した教員研修プログラムの開発  
日々の授業を対象化し、「見取り」と「インターベンション」の量的質的向上を図るためのカンファレンス型教員研修プログラムを実施、改良する。

教師の「見取り」の質を支える教科専門性の内実を明らかにし、それを効果的に身につけるための研修を開発、実施する。

## 4. 研究成果

初年度に収集したものを中心にこれまでの研究で蓄積してきた事例などを対象に以下の観点から分析と考察を進めた。

『A 深まりのある学習場面を生み出す「見取り」と「インターベンション」に関する研究』の観点においては、「学習の深化を捉えることのできる学習のエビデンスを収集し、教師との関わりの中で学習が深化するメカニズムを明らかにする」を中心に分析と考察を進め、以下の点が学習深化のポイントとして捉えられることを明らかにし、かつ教師のどのような介入が必要となるか指摘することができた。「違う考えに出会うことで自分の考えが広がったり、深まったりし

た」、「キーワードや枠組みを与えられることで自分の見方や考え方が言語化した」、「見方を

変えてみたら（図や表で整理すること）で新しい発見ができた」、「自分生活や経験・知識と新しく学習したことが結びつけられた実感を持てた」。こうした学習活動を生み出すために教師は学習者の認識や思考の表出、学習者相互の交流の活性化などを目的とした「見取り」と「介入」を行えるようになる必要があることを指摘している。

また、『B教師の「見取り」と「インターベンション」の質的向上を目指した教員研修プログラムの開発』においては、『教師の「見取り」の質を支える教科専門性の内実を明らかにし、それを効果的に身につけるための研修を開発、実施する』を進めた。

授業における教師の効果的な介入を生み出すための「見取り」の質的向上を促すための教員研修として、これまでの研究で蓄積してきた「授業カンファレンス」の内容に加え、授業計画段階及び授業実施段階における学習者の言語パフォーマンスの質を見とる観点を理解し、具体的な学習状況のどの部分に目を向ければよいのかという点に関する研修の開発が重要であることが明らかになった。さらにその研修のプロトタイプの開発に着手することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 松友一雄
2. 発表標題 教師の「見とり」と「インターベンション（介入）」の内実と質的向上を目指した研修の実態
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 岩田康之編 分担執筆 大和真希子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 208
3. 書名 『教育実習の日本的構造 - 東アジア諸地域との比較から』	

1. 著者名 甲斐雄一郎 間瀬茂夫編 分担執筆 松友一雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 239
3. 書名 新教職課程演習 第16巻 中等国語科教育	

1. 著者名 長田友紀 山元隆春編 分担執筆 松友一雄	4. 発行年 2021年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 新教職課程演習 第10巻 初等国語科教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	大和 真希子  (Yamato Makiko)  (60555879)	福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門(教員養成)・ 准教授    (13401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------